

2018年度 和泉短期大学 シラバス

授業科目名	手話	教員氏名	南 玲子
学年	2年	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1単位
必修・選択	選択		
テーマ	保育・幼児教育・福祉職を目指す学生たちが、卒業後、耳の聴こえない幼児・児童・保護者などに会った際の、コミュニケーションの手掛かりとなる手話について、その基礎を学ぶ		
ディプロマポリシー	1.保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。		○
	2.保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。		○
	3.保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる。		○
カリキュラムポリシー	科目群Ⅰ 教養	キリスト教主義の精神を踏まえて、保育と人権にかかわる人としての価値観を再構築する	
	科目群Ⅱ 原理	様々な世代を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕に基づく人間観を養う	
	科目群Ⅲ 知識・技能	子どもの心と体とそれを取り巻く環境を知り、共に成長するための様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける	○
	科目群Ⅳ 実践	学んだ知識、技能、価値観を現場に即して臨機応変に実践できる体験を積み、キャリア形成の基礎を培う	
授業の概要	<p>1、名前・住所・趣味・仕事など、一通りの自己紹介ができる程度の手話表現を中心に学ぶ。</p> <p>2、幼児保育などの現場に増えてきた手話の歌について、その取り組みと意味を考える。</p> <p>3、耳栓体験などを通じて、耳の聴こえない方の実生活をおもんばかる。</p> <p>4、聴こえないゲストティーチャーの体験談を聞き、実際の姿に触れる。</p> <p>5、手話通訳制度など、聴こえない人を取り巻く、法律・環境について学ぶ。</p> <p>6、この授業は、手話による演習のため、基本的に音声は使わない。</p> <p>※全ての講義は、学生自身が実際に手で語れるようになることを目的とした実演形式。</p> <p>※きこえない人との「コミュニケーション」や「社会実状」に関する情報は、学生たちの単なる知識として終わることのないよう、グループディスカッションなどを通じ、現場の行動に結びつく「心」に残ることを目標に提供していく</p>		
授業の到達目標	<p>保育・幼児教育・福祉職を目指す学生たちが、卒業後、耳の聴こえない幼児・児童・保護者などに会った際、手話に対する苦手意識を持たず、心を開いてコミュニケーションが取れるようになること。相手の立場に立って、必要なコミュニケーション手段を工夫できること。また、手話通訳などを依頼しなければならなくなった場合、どこに問い合わせればいいのか、相談先の情報が身につけていること。</p>		
テキスト	講師が準備したテキストを、コピーして使用。(大泉書店『超カンタン！手話で話そう』本人著)		
参考書	なし		
	授業中にプリントを配布する		
ポートフォリオ	なし		
課題の確認と成績評価方法	出席50% レポート20% 実技・筆記試験30%		

授業概要と課題

第1回	テーマ 内容	【はじめに】手話の基本。あいさつ。簡単な意思表示方法を学ぶ。全体として音声を使わない授業になるため、その意味・意義も説明する
	授業外指示	初回に学んだ手話のあいさつ、簡単な意思表示は、今後全編にわたって使用されるものになるので、次週までにきちんと覚えておく。
第2回	テーマ 内容	【名前】自分の名前の表現を覚える。また、クラスの一人一人違う名前から、単語による様々な表現を学び、他者の名前も表現できるようにする
	授業外指示	学んだ「自分の名前の表現」を、次回までにしっかり覚えておく。
第3回	テーマ 内容	【指文字】手話の五十音にあたる指文字を覚える。単語自体の表現がわからないときも、指文字を使って相手に意思伝達ができるようになる。
	授業外指示	次回からの授業で、これを使いながら進行することになる。しっかり覚えて次回から読み取りができるようにしておく。
第4回	テーマ 内容	【住所】自分の住まいの都道府県、市町村の表現を学ぶ。／【手話の歌】手話の歌のあり方、表現方法の基礎。(きこえない人と音楽のあり方をディスカッションを通じて学ぶ)
	授業外指示	「自分の住まいの県(都)・市区町村」を、覚える。手話の歌は、ゲストティーチャーを迎えた時グループごとに披露することになるので、練習を積み重ねる。
第5回	テーマ 内容	【仕事・学校】将来の夢や、学校生活にかかわる手話表現を学ぶ。
	授業外指示	「自分の仕事・学校の表現」ができるようまとめておく。
第6回	テーマ 内容	【趣味】一人一人の好きなものを伝え合う。趣味の会話表現。
	授業外指示	「自分の趣味」の表現を、覚えておく。
第7回	テーマ 内容	【耳栓体験】耳栓をして、学校周辺を歩き、聴こえない状態を体験。(グループによるフィールドワーク) グループディスカッションを通じ、より理解を深める
	授業外指示	各自、次週までに、体験をレポートにまとめて提出。
第8回	テーマ 内容	【家族】両親・兄弟姉妹など、家族構成の手話を学ぶ。
	授業外指示	「自分の家族に関する手話表現」を覚えておく。
第9回	テーマ 内容	【ゲストティーチャー準備】次週ろう者ゲストを迎えるにあたり、質問などの会話をレッスン。手話の歌の披露準備。グループディスカッションを通じ、より理解を深める
	授業外指示	次週の「ゲストティーチャー」を迎えるまでに、グループごとに質問や手話の歌が、よりうまく伝わるよう練習しておく。

第10回	テーマ 内容	【ろう者ゲストティーチャー】実際のろう者講師を招き、苦労話や、ろう者ならではの生活体験を聞く。また、質問などの会話や手話の歌の披露により、交流を深める。(手話によるプレゼンテーション)
	授業外指示	各自、次週までに、「ろう者ゲストを迎えて」の、出会いや感想について、レポートをまとめて提出。
第11回	テーマ 内容	【数字】手話の数字を学ぶ。誕生日のほか、値段、時間などの表現も覚える。
	授業外指示	自分の「誕生日」を、きちんと覚えておく。
第12回	テーマ 内容	【まとめ】これまで学んだ手話表現のまとめのほか、手話・ろう者を取り巻く制度・行政などについての基礎知識を学習する。 グループワークによる、情報共有も行っていく
	授業外指示	卒業後、聴こえない人と出会った際の重要なデータを学ぶことになるので、しっかりと頭に入れておくとともに、将来の参考のためこの資料をきちんと保管する。
第13回	テーマ 内容	【筆記テスト】授業内で、これまでの内容を確認する筆記テストを、行う。
	授業外指示	自分の学習成果を把握し、今後の参考にする。
第14回	テーマ 内容	【実技テスト】当初目標とした手話による自己紹介ができるようになったかを、実技テストで確認。
	授業外指示	自分の学習成果を把握し、今後の参考にする。
第15回	テーマ 内容	【交流会】これまで学んだ手話で、クラス全員による交流会。音声なしの手話で行われる。
	授業外指示	卒業後、聴こえない子供たち、保護者に会った時、こうした手話の授業があったことを心にとめ、いざという時の道しるべとしてもらいたい。